//

いわて マナビィ マガジン

No.172　2018. 12.11

//

前回お知らせしました、「平成 30 年度岩手県生涯学習推進研究発表会」の第 2 次案内が出来上がりました。下記のアドレスから、要項等を確認の上、参加につきましてご検討いただくようお願いいたします。

※要項やチラシ、申込様式はこちらから

↓↓↓

http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/29youkou/29youkou.html

さて、今回のマナビィ　マガジンは、「推進センター事業の報告」と「放課後児童支援員認定資格研修」についてです。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

センター事業報告

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

◆復興支援セミナー（宮古会場）「連携・協働によるいわての復興教育研修会」

【実施日】平成 30 年 11 月 16 日（金）

【会場】宮古市崎山公民館（宮古市）

【内容】

〇説明「宮古教育事務所管内の復興教育の状況について」

[講師]宮古教育事務所　指導主事　小松　順一 氏

※学校教育で取組んでいる復興教育について説明していただきました。

〇実践発表

①「気仙沼市 地域をつなぐ地域学校協働活動の取組」

[発表者]気仙沼市教育委員会生涯学習課

主幹（社会教育主事）　神谷　卓也 氏

②「東松島市らしさを発揮する地域学校協働活動『ふるさと教室』」

[発表者] 東松島市教育委員会生涯学習課

社会教育主事　鎌田　悠介 氏

[講評]岩手県立生涯学習推進センター　所長　藤原　安生

※宮城県における、地域学校協働活動を通じた地域コミュニティと心の復興の実践から、人との関わりづくりについて学びました。

〇協議「復興教育プログラムを企画しよう」
[進行] 岩手県立生涯学習推進センター　社会教育主事　八重樫　誉子
宮古教育事務所　社会教育主事　佐々木　透

[アドバイザー]
気仙沼市教育委員会生涯学習課　主幹（社会教育主事）神谷　卓也 氏
東松島市教育委員会生涯学習課　社会教育主事　鎌田　悠介 氏

※地域素材や課題を活かしながら、人との関わりをつくるには、どんな要素が必要なのか企画づくりをとおして考えました。

【受講者からの感想】
・「地域学校協働活動」の推進にあたり、「何をしているかではなく、何のためにしているか」という視点は大切であると感じた。より当事者意識を持ち、自分ごととしていくためには、成功体験の積み重ねに加え、必要感を持った活動にしていくと必要があると思った。
（学校関係者）

・説明と３つの発表を関連付けて捉えることで、これからの宮古地区で進めるべき復興教育や社会教育の方向性を見出すことができた。
（教育事務所社会教育主事）

・自分の地域や学校でも真似することのできる実践が紹介されていた。協議の中で、地域は違っていても同じような悩みがあることや解決方法に迫るヒント知ることができ有意義であった。
（学校関係者）

◆子どものまなびを支えるセミナー「青少年教育担当者研修会」（沿岸南部会場）」
【実施日】平成 30 年 11 月 21 日（水）

【会場】大船渡地区合同庁舎（大船渡市）

【内容】
〇演習Ⅰ「コミュニケーションを円滑にするアイスブレイクの手法」
［講師］岩手県立県南青少年の家　指導員　及川　秀明 氏

※様々なアイスブレイクを実際に体験しながら、コミュニケーションが円滑になる雰囲気作りを学びました。

〇演習Ⅱ「関係作りプログラムの手法」
［講師］国立岩手山青少年交流の家　事業推進係長　田口　康宏 氏
国立岩手山青少年交流の家　企画指導専門職　松本　博路 氏

※アドベンチャープログラムの手法を取り入れた活動をとおして、集団で活動する際の人間関係づくりについて学びました。

〇情報交流「ネットワークをつくりましょう！」
[進行]岩手県立生涯学習推進センター　社会教育主事　佐藤　和行
沿岸南部教育事務所　主任社会教育主事　大和　浩

※青少年教育に携わる関係者相互のネットワークを広げ、より良い事業を考える機会となりました。

【受講者からの感想】
・初対面の方と打ちとける方法を学ぶことができた。会話だけでなく体を使うことでより効果があることも理解できた。
（市町村教育委員会関係者）

・アイスブレイクの手法や人との関係作りの方法を楽しみながら学ぶことができた。情報交流では、他の団体から貴重な情報をいただいた。
（社会福祉協議会職員）

・アイスブレイクやコミュニケーションに特化した研修は、あまり受けたことがなかったので貴重だった。普段関わることが少ない方々と交流し、情報を得たり、コミュニケーションをはかったりすることができて大変良かった。（放課後児童クラブ・放課後子ども教室関係者）

◆センター・公民館職員等研修講座（盛岡地区）

【実施日】平成 30 年 11 月 29 日（木）

【会場】紫波町役場（紫波町）

【内容】
〇講義・演習「住民の視点に立った社会教育事業づくり」
[講師]山形大学地域教育文化学部　准教授　安藤　耕己 氏

※事業づくりに関する基本的な考え方や住民のニーズを意識した課題の捉え方について学びました。また、ワークショップをとおして、お互いの課題を共有しながら、それぞれの事例に合った解決方法の検討を行うことができました。

【受講者からの感想】
・大変有意義な講座だった。ワークショップも初めての形式で今後の参考になった。（市町村職員）

・他の公民館の事業を交流できて良かった。今後の事業企画・運営に役立てていきたい。（公民館職員）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

放課後児童支援員認定資格研修

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
当センターが主管している「放課後児童支援員認定資格研修」も 3 年目を迎え、今年度の研修も 11 月 7 日（金）の沿岸南部会場をもって全て終了いたしました。
この資格研修は、放課後児童クラブで子どもの育成支援にあたる職員を「放課後児童支援員」として認定するために、国によって定められた研修を都道府県において実施することを義務づけられているものです。（全 4 日間、16 科目、24 時間）
今年度も保健福祉部子ども子育て支援課と当センターが連携して行い、合計 427 名、のべ 854 名が受講しました。

以下のような日程で開催しました。

①【盛岡会場・国立岩手山青少年交流の家】
　＜前期＞6/12～6/13　＜後期＞9/18～9/19
②【県南会場・岩手県立県南青少年の家】
　＜前期＞7/24～7/25　＜後期＞10/23～10/24
③【沿岸会場・岩手県立陸中海岸青少年の家】
　＜前期＞8/21～8/22　＜後期＞11/6～11/7
④【県北会場・岩手県立県北青少年の家】
　＜前期＞8/28～8/29　＜後期＞10/2～10/3

【受講者からの感想】
・今回の研修を受け、子どもたちと関わる毎日が、学びであることを改めて痛感した。これからも随時研修教材を読み、日々を振返りながら子どもたちに信頼される支援員になりたいと考える。
（沿岸会場・前期受講者）

・今回の研修をとおして、子どもを理解することの大切さや親の気持ちをくみ取る姿勢の重要性が再認識できた。（盛岡会場・後期受講者）

・どの科目も「自分のあり方はどうか？」と振り返る機会となった。指導していただいた内容は、これまでに学んだことのないものばかりで新鮮だった。（県南会場・後期受講者）

▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼

このメールマガジンは、県内小中学校、社会教育関係者及び生涯学習・ 社会教育に関心を持たれている登録者の皆様に無料で配信しています。 ご意見・ご感想、登録・登録解除は下記アドレスにご連絡ください。 ⇒ E-mail ; kouji-kumagai@pref.iwate.jp

メルマガのバックナンバーをセンターＨＰ「まなびネットいわて」で閲覧できます。⇒ http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/
左下の「発行物・刊行物」＞「いわてマナビィマガジン」をクリック

★ 携帯・スマホで受信の場合、メールが届かないことがあります。迷惑メール対策として、特定の発信者からのメールのみを受信するドメイン指定受信機能と思われます。受信設定の指定メールアドレス欄

に「pref.iwate.jp」の設定をお願いいたします。

▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼

発　行：岩手県立生涯学習推進センター　（花巻市北湯口 2-82-13）
編　集：熊　谷　　浩　二